



上七軒  
×  
上七軒歌舞練場  
～歌舞練場での公演～

(取材先) ◆梅嘉さん(芸妓・上七軒芸妓組合組合長) ◆市ゆうさん(舞妓)

**Q** 歌舞練場は何をするところですか?  
(中学1年生/浅井ともえさん)

**A** ◆梅嘉:上七軒の舞妓さん、芸妓さんたちが、春・秋に踊りの会を催す所です。練習する所は別にあります。また歌舞練場は、映画の試写会、コンサート、講演会などにも利用されています。歌舞練場の敷地内には、美しい日本庭園があり、その中庭は、夏場はビアガーデンにも使っています。



**Q** 歌舞練場で行われる演目での配役は毎年変わりますか?  
(小学5年生/小松寿庵さん)

**A** ◆梅嘉:舞台での演目により、配役が毎回変わります。うちは、早くも10年目で演目の主役に抜擢されました。若い年齢の方が適役だったからかもしれませんが、早い抜擢でした。役作りだけでなく、体調管理、プレッシャーなどあり辛いときもありましたが、千鶴楽(公演の最終日)の幕が下りたときは、もっとやりたいと思いました。上七軒夜曲は定番なので、この演目は変わらずに、毎回行います。

**Q** 訪れるのに一番おすすめの時期はいつですか?  
(小学5年生/田中智大さん)

**A** ◆梅嘉:一番おすすめの時期は「春」です。上七軒歌舞練場では春と秋に踊りの会を開催しますが、春は新作が発表されることと、場内の2本の桜がきれいに咲きます。舞台と一緒に満開の桜の景色も楽しんでほしいです。  
◆市ゆう:うちも春の桜の時期がきれいだと思います。今年の春に初めて舞台を踏んだときは緊張しましたが、来年の春の舞台では緊張せず、頑張りたいです。



**Q** 普段のお化粧と舞台のお化粧は違いますか?  
(小学5年生/小松安慈さん)

**A** ◆梅嘉:舞妓さんは、舞台もお座敷も、自分でお化粧をします。だいたい45分ぐらいかかります。芸妓さんは、舞台のときは、専門のメイクさんにやってもらいます。メイクさんのことを、けわい師、かお師と言います。お化粧の基本の色は、白、赤、黒で、最近は照明が良いので、黒の代わりにこげ茶を使うこともあります。芸妓さんは、男役もあるので、かつらをつけますが舞妓さんは地毛です。

**Q** 今までの中で一番の思い出は何ですか?  
(中学1年生/浅井ともえさん)

**A** ◆梅嘉:この世界に入って10年目、主役に大抜擢された舞台です。セリフの多さ、をどりの振り、10日間の体調のことを考えプレッシャーで胃痙攣になり薬を飲みながら張りました。千鶴楽で幕が下がった瞬間、無事に終わった嬉しさと、この役が今日で終わる寂しさと、達成感などいろんな気持ちが噴出して泣いてしまいました。

◆市ゆう:舞妓になってこの4月の初舞台の上で幕が上がる寸前、体が震えて止まらず、となりの先輩の舞妓さんに「市ゆうちゃん、大丈夫や」と言ってもらったことです。



祇園東  
×  
お茶屋「まん」  
～お茶屋の「おもてなし」～

(取材先) ◆上柳満彩美さん(お茶屋兼置屋「まん」の女将) ◆満彩尚さん(舞妓)

**Q** お茶屋さんは何をするところですか。お茶屋さんは何軒くらいあるのですか?  
(小学6年生/川西美夏海さん)

**A** ◆上柳:お茶屋さんは主に「おもてなし」のお席です。2時間ほどの間に舞妓さんや芸妓さんが踊りを披露したり、お客様とお座敷遊びをしたりします。お食事をしながら過ごせます。遠方から有名な方が来られることもあります。京都には祇園甲部・宮川町・先斗町・上七軒・祇園東の5つの花街があり、全体でお茶屋さんは118軒あり、舞妓さんは60人、芸妓さんは157人います。

**Q** 「一見さんお断り」と言いますが、どうしたらお茶屋さんに行けるのですか?  
(小学6年生/深谷嶺咲さん)

**A** ◆上柳:常連のお客様が紹介した方のみ入店できます。初めての方は、電話やホームページを通じた予約はできません。なぜ一見さんは入れないのかというと、お茶屋さんには、舞妓さんや芸妓さん、お客様の中には有名な方も沢山来られますし、勝手に写真を撮ったり話しかけたりするような行為は迷惑になります。マナーを守りお店の雰囲気や壊さない方であるかどうかの判断を常連さんにしてもらいます。もしダメなことがあった場合は紹介された常連さんの責任になります。信用と信頼で成り立っているのです。

**Q** 舞妓さんは毎日、お茶屋さんにいるのですか?お茶屋さんの女将さんは何をしていますか?  
(中学3年生/大原彩さん)

**A** ◆上柳:お茶屋さんは活動する場所、置屋さんは寝泊りする場所です。祇園東はお茶屋さんと置屋さんの両方をする事ができますが、できない花街もあります。今は変わってきているのですが、「まん」はお茶屋さんも置屋さんもしているの、舞妓さんは毎日お茶屋さんについて、一緒に生活もしています。女将さんは舞妓さんの躰をします。そして、行儀作法を教えます。お客様に失礼のないように100点満点以上のおもてなしができるように心掛けています。



**Q** お茶屋さん、舞妓さん、芸妓さんで一番大切にしているルールは何ですか?女将さんが一番舞妓さんや芸妓さんに受け継いでほしいことは?  
(中学2年生/坂口穂志さん)

**A** ◆上柳:私にとって芸妓さん舞妓さんは我が子のようなもの。家族として一緒に生活するうえで嘘をつくことは絶対にダメです。信頼できなくなるし、本音で話ができなくなります。そしてこの文化を受け継いでほしいです。古い「しきたり」は若い子には難しいこともあるけど、芸事もそれ以外もきっちりとした「しきたり」の文化です。それとお客様皆様が喜んでくれますおもてなしの心ですね。

◆満彩尚:その家のルールを守ることは大切です。そしてお客様の立場になって、喜んでもらえるおもてなしをしたいと思います。

**Q** お茶屋さんの活動で、やりがいがあるのはどんなときですか?  
(中学3年生/野澤心優さん)

**A** ◆満彩尚:お客様に喜んでもらったときです。ずっとお世話になっているお客様に「踊りが上手になった」と成長を喜んでもらったときはとても嬉しかったです。

◆上柳:舞妓さんになるため、親御さんから15歳というデリケートな時期に預けていただくので、大切に育てます。その子どもたちが舞妓さんになってどんどん美しくなり、成長を感じられたときはやっぱり嬉しいです。

「親子で知ろう!京・花街の文化」  
子ども取材体験!

主催 京都市 CITY OF KYOTO 運営・監修 (公財)京都伝統伎芸振興財団 おおきに財団

京都市では、京都花街おもてなし文化振興協議会と共に  
日本遺産「候補地域」として認定された「おもてなし文化～受け継がれゆく京の花街～」の  
日本遺産認定を目指して様々な事業を実施しています!  
この度、親子一緒に京都の花街を正しく知り、理解することができるよう、  
花街の現場を取材する「親子で知ろう!京・花街の文化」子ども取材体験を実施しました。  
子どもたちの取材成果をまとめていますので、ぜひご覧ください!



文化庁 令和4年度伝統文化親子教室事業(地域展開型)







**甲**  
**祇園甲部**  
 ×  
**八坂倶楽部**  
 ～お稽古の現場～

(取材先) ◆井上安寿子さん(京舞井上流舞踊家・学校法人八坂女紅場学園舞科教師) ◆小扇さん(芸妓) ◆真末さん(舞妓)

**Q**  
 小扇さん  
**お稽古の先生は  
 どんな方々ですか?**  
 (小学5年生/小松安慈さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆井上:五花街それぞれ舞の流儀が違うのですが、祇園甲部は、井上流という流儀の舞を習います。先生は皆、井上流の舞の師匠で、教えるほかに、自分達も日本舞踊家として舞台に出たりして活動しています。舞妓さんは、ほかにも、各自で興味のある習い事をしながら芸を磨きます。

◆小扇:茶道、華道、三味線などの楽器を習ったりします。各自で選択した習い事については、個人的に自分で選んだ先生に習いに行くこともできます。

**Q**  
 小扇さん  
**お稽古の時間割の  
 ようなものは  
 ありますか?**  
 (小学5年生/小松寿庵さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆小扇:小学校のように、学校が決めた時間割のようなものはありません。習い事の先生とのスケジュールを調整して、時間を決めたりします。舞妓さんが各自で習いたいと希望する古典的な習い事と、「都をどり」などの定期的な舞台の練習などは、そのつど、調整をして、お稽古の時間を割り当てています。

◆井上:お稽古のスケジュールは、花見小路にある甘味処に黒板があり、そこで見られるようになっています。



**Q**  
 小扇さん  
**どのような気持ちや  
 志で、お稽古に  
 臨んでいますか?**  
 (中学1年生/塚原葉子さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆真末:緊張して上手な舞にしたいです。いろいろな舞をお座敷でお披露目できるように、振付のレパートリーを増やせるように、日々お稽古に励んでいます。

◆小扇:お師匠さんの振付をできる限りキャッチできるようにしています。振付、間の取り方、メリハリ、手の角度、目線、顔や身体の位置などを細かく丁寧に確認しています。井上安寿子お師匠さんも指導者の立場だけではなく、ご自身も舞踊家として舞に磨きをかけるために、お稽古に励んでおられます。



**Q**  
 小扇さん  
**今までのお稽古で  
 一番嬉しかったことと、  
 一番キツかったことを  
 教えてください。**  
 (小学6年生/芦川いささん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆真末:前回のお稽古で注意されたことが、次のお稽古では注意されなかったことが嬉しかったです。

◆小扇:「都をどり」では舞妓になったばかりでも、ベテランのお姉さんと一緒に「総をどり」に出演するので、ついていくのに必死で大変でした。

◆井上:「都をどり」のお稽古は1か月で仕上げなくてはならないので、一人一人を普段のお稽古と比べてゆっくり見ることができないのが大変です。

**Q**  
 小扇さん  
**をどりはゆっくりした  
 調子ですが、大変な  
 ところはどこですか?**  
 (小学5年生/野村小春さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆小扇:なんてことない動きがお客様から見たら優雅に見える、といけません。例えば、「座る」という動作を、四秒かけてこらえながら座る、といった動きが大変です。

◆井上:ゆっくりした調子だと体を速く動かしたくなりますが、そこをじっと待てるかどうかが大事です。しかし、ゆっくりだけではなく、メリハリをつけないと辛気臭くなるので、全体的に魅せられるように、流れるように舞うことが大事です。



**宮川町**  
 ×  
**料理屋「喜久屋」**  
 ～花街と料理屋の関係～

(取材先) ◆駒井靖さん(料理屋「喜久屋」の店主) ◆とし菜希さん(舞妓)

**Q**  
 小扇さん  
**料理屋さんとお茶屋さん  
 はどう違うのですか?**  
 (中学3年生/野澤心優さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆駒井:料理屋では調理スペースがあって、お料理を提供します。お茶屋さんには調理スペースはなく、お客様が食事をするときは出前を取ります。喜久屋でもお茶屋さんに出前をしています。またお茶屋さんでは一見さんお断り<sup>※1</sup>の文化がありますが、料理屋にはありません。花街の料理屋は芸舞妓さんと呼ぶ以外は普通の料理屋さんと変わらず、お茶屋さんより敷居は低いです。

**Q**  
 小扇さん  
**料理屋さんには、  
 いつも舞妓さんが  
 来ますか?**  
 (小学5年生/高山悠奈さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆駒井:料理屋などのお客様からの依頼があるとき、お茶屋さんを通して呼んでもらうので、いつもいるわけではありません。お茶屋さん、舞妓さんが活動する場所です。お茶屋さんは、エージェント(代理人)のような役割なので、そこから料理屋に舞妓さんが派遣されるような形になっています。舞妓さんは、置屋さんで生活していますが、置屋さんもお茶屋さんも行っている場合もありますので、舞妓さんは、普段はそういう所にいます。



**Q**  
 小扇さん  
**舞妓さんが、料理屋  
 さんに行く場合、  
 決まったお店だけ  
 に行きますか?**  
 (小学5年生/高山悠奈さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆駒井:舞妓さんや芸妓さんは、料理屋だけではなく、お茶屋さん、ホテルの宴会場などにも呼ばれることがありますので、決まったお店だけに行くわけではありません。料理屋は各花街につき、1つのお茶屋さんにお願ひできるようになっています。どの料理屋からの依頼でも受けるわけではなく、舞妓さんは様々な基準を満たしている料理屋だけに、出向くことができます。



※1 一見さんお断り…面識なく初めに訪れた人を断ること  
 ※2 花代…お花の代わりに渡す金銭のこと

**Q**  
 小扇さん  
**舞妓さんと料理屋さん  
 の関係について、  
 昔と今とで違うところ  
 はありますか?**  
 (中学1年生/浅井ともえさん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆駒井:昔と今では違っていません。歴史は明治時代までさかのぼることができますが、この150年は変わってないです。お客様からの要望で舞妓さんと呼ぶ際は、必ずお茶屋さんを通して呼ぶというルールは今も変わっていません。舞妓さんが出払って手配できなかった場合、お客様にその旨を伝えて了承してもらっています。

**Q**  
 小扇さん  
**料理屋さんと花街が  
 結びついていて  
 良かった点は  
 何ですか?**  
 (中学3年生/栗原船人さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆駒井:花街に料理屋があることによりアドバンテージが得られています。お客様が芸妓さんの移動時間も花代<sup>※2</sup>を支払うため、近い花街との交流を優先しています。同じ花代で、お客様に芸妓さんと長時間、過ごさせてあげることができ、お茶屋さんにとっても料理屋が近いことにより、お茶屋さんにお越しいただいているお客様に、温かい料理を食べてもらうことができる点も良いです。お茶屋さんにとっても料理屋にとっても良い点がありません。



**先斗町**  
 ×  
**先斗町歌舞練場**  
 ～置屋の生活～

(取材先) ◆勝見恭子さん(置屋「勝見」の女将) ◆もみ紘さん(舞妓)

**Q**  
 小扇さん  
**置屋さんとはどんな場所  
 ですか。舞妓さんとの関係  
 はどんなものですか?**  
 (中学3年生/野澤心優さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆勝見:置屋さんというのは、舞妓さんの住んでいる所です。舞妓さんも仕込み<sup>※3</sup>さんもひとつ屋根の下、共同生活をし、家族同様に過ごします。芸能界などでいう、プロダクション(事務所)のような役割を果たすのも、置屋です。

**Q**  
 小扇さん  
**置屋さんにいる舞妓さん、  
 仕込みさんは何人ですか?  
 また芸妓さんになっても  
 置屋さんでくらせますか?**  
 (小学5年生/田中結緒さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆勝見:家によって所属している人数は違いますが、うちには舞妓さんが2人、今年の4月に入った仕込みさんが1人います。お見世(お店)出し<sup>※4</sup>をしてからだいたい6年は、独り立ちしても大丈夫なように家で生活しながらいろいろなことを覚えてもらいます。そのため、舞妓さんから芸妓さんに早くなってからもしばらくは置屋で暮らしてもらいます。人によりそれぞれ違います。



※3 仕込み…舞妓になるための修行期間(10か月～1年程度)のこと  
 ※4 お見世(お店)出し…仕込み期間終了後、約1か月の「見習い」を経て、正式に舞妓になること



**Q**  
 小扇さん  
**置屋さんでの  
 お約束ごとは  
 ありますか?**  
 (小学5年生/小峯れいあさん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆勝見:ちゃんご挨拶をする、お姉さんのお手伝いをちゃんとする、規則正しい生活をするなど、最低限のルールは守っています。家族といえども今まで知らなかった人同士が生活するので、家なりの小さなお約束があります。舞妓さんの格好のまま一人でコンビニやファーストフード店に行くことは絶対にしません。私とか、大きいお姉さんにちょっと一緒に買いに行こう、と言うてもらったときには行きます。

**Q**  
 小扇さん  
**いろいろな女性が舞妓さん  
 になりたいと来ると  
 思います。性格も得意なこと  
 も、また頑張ってるか  
 どうかも様々だと思  
 います。舞妓さんを  
 育てていくうえで、  
 普通の生活で、女将  
 さんはどこを見  
 ていますか?  
 お母さんみ  
 たいですか?**  
 (小学5年生/東希々花さん)

**A**  
 おこたえ  
 ◆勝見:はい、お母さんみたいです。  
 ◆もみ紘:はい、第二の母です。

◆勝見:例えば、皆さんの普通の生活で正座することもないと思いますが、舞妓さんも慣れない頃は同じです。お座敷から帰ってきて「あぁしんどかった」と足を伸ばして倒れ込むようなことがあります。「お行儀が悪いからやめなさい」と普段お母様、お父様が家でされていることと同じようなことをしていると思います。

